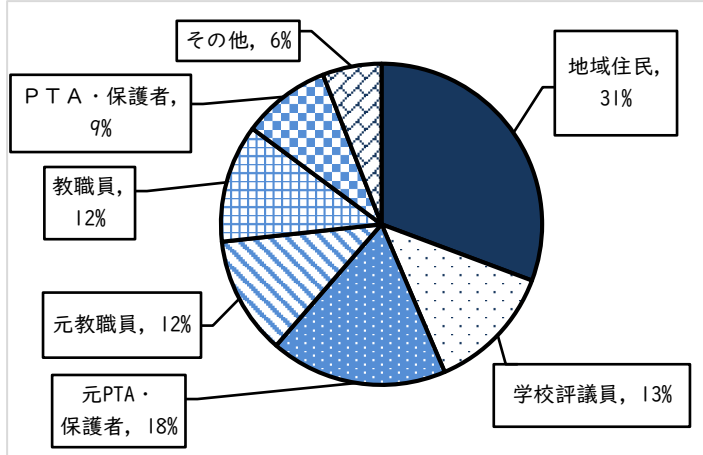


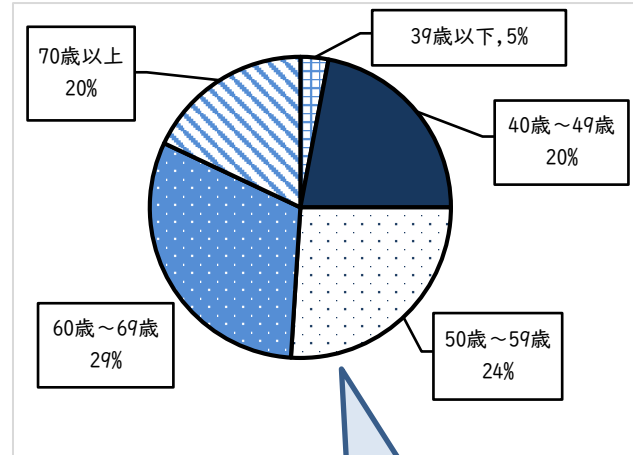
# 地域コーディネーターについて

## 地域コーディネーターの現状について

(1)地域コーディネーターの所属について



(2)地域コーディネーターの年齢構成



- (3)経験年数 4.2年 (前年度 4.0年)
- (4)1か月の平均活動時間数 9.6時間 (前年度 9.6時間)
- (5)1か月の平均学校訪問回数 4.6回 (前年度 5.0回)

前年度  
39歳以下, 9%  
70歳以上, 18%

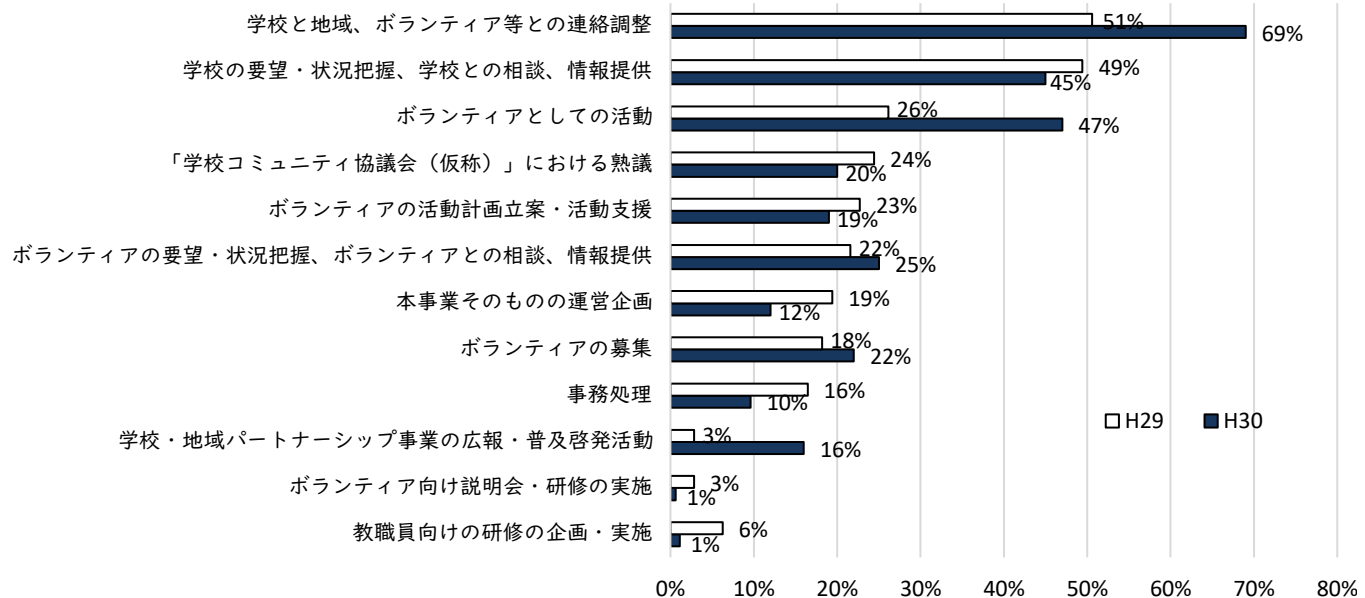
- ・コーディネーターの立場は、地域住民が多く、次いで学校評議員、元PTA・保護者、元教職員、教職員が続きます。前年度と比較すると学校評議員の割合が下がっている一方で、元PTA・保護者、元教職員の割合が増加しています。
- ・コーディネーターは、月平均9.6時間の活動を行っており、4.6回程度学校を訪問しています。(前年は、月平均9.6時間の活動、5回程度学校を訪問)

## 学校を中心に、多くのコーディネーターやボランティアが集い、人と人のつながりを広げることが大切です。

- コーディネーターの年齢構成は、前年度と比べて39歳以下と70歳以上が増加しています。
- 60歳から69歳が一番多く、退職後にこの事業に関わっていただいている方が多くなっています。そのため、市町村教育委員会や各地域、学校において、次世代のコーディネーターの発掘・育成が必要な時期となってきています。

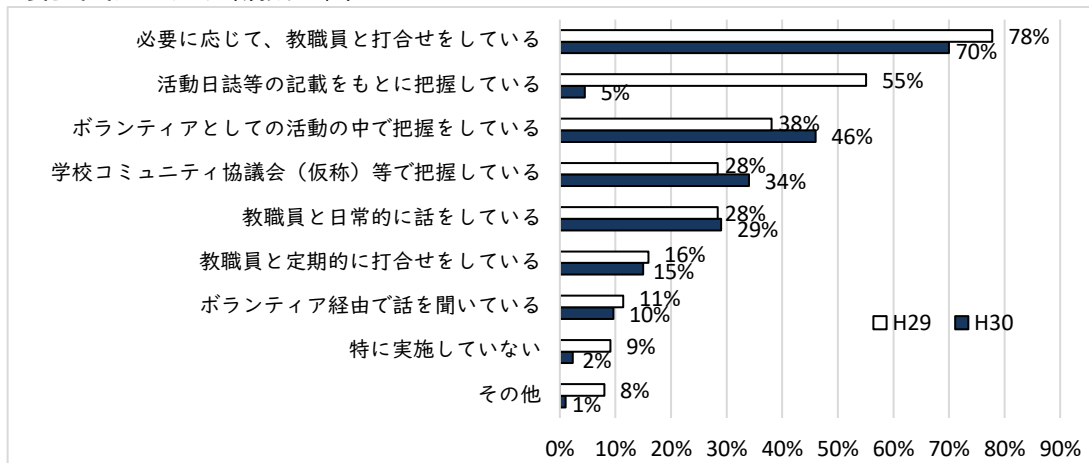
## 地域コーディネーターの活動について

(1)力を入れて取り組んでいる内容(3つまで選択)



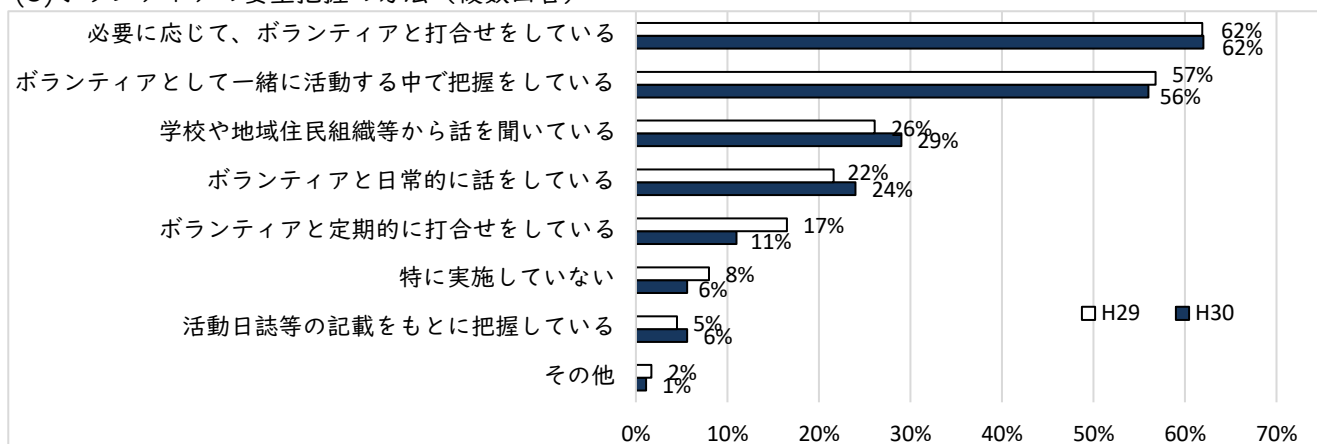
- ・コーディネーターが力を入れている活動は、自身のボランティア活動だけでなく、学校と地域・ボランティア等との連絡調整、や学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供の割合が高くなっています。
- ・事業の広報・普及啓発活動の割合が大きく増加しています。

(2)学校の要望把握の方法（複数回答）



・必要に応じて教職員と打合せをしているコーディネーターの割合が高く、また、コミュニティ協議会等において把握している割合も増加しています。

(3)ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



・ボランティアと、必要に応じて打合せをしたり、一緒に活動する中で要望を把握している割合が高く、学校や地域住民組織等から話を聞いている割合が増加しています。

コーディネーターとしての役割が認知されてきています

- 自らのボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域・ボランティアの方々との間をつなぐ活動は、コーディネーターの基本的かつ重要な役割です。
- コミュニティ協議会及び学校運営協議会の場だけでなく、教職員やボランティアの方々、日常的に連絡を取り合い交流することが大切です。
- 人と人とのつながりを広げるためにも、PTAなどへの学校・地域パートナーシップ事業の広報・普及啓発活動を積極的にすすめていただくようお願いします。

その他（地域コーディネーターの意見）

- 昨年度の反省から、若い先生も入っていただき、打ち合わせや日常的な話をするようになってきました。
- 子どもたちにとっていろんな体験、活動ができるので、これからも円滑なコミュニケーションをとりながら、更に内容を工夫したり新しいことにも挑戦していけたらと思っています。
- まだまだ自分の担当する地域では各々のボランティアグループがバラバラに活動している気がする。お互いのグループのことをよく知り、絆を深めながら、事業をもりあげていけたらと思う。
- 現在は、学校が中心となり、計画等をしてくださっているが、これを住民ができるようになればよいと思っています。
- 学校は地域の支えがあってこそ充実した活動が実践できると思いますので、今後も地域で支えて参りたいと思います。
- 人材の確保、予算の確保、事業の継続の要望。